# Museum News
Planning Office

絵：柳田 基

## 2010 春

## 展覧会/講演会

### 展覧会

物見遊山にいきまひょか
「浪花百景」大坂名所案内
2010.5.12（水）▶6.8（火）
時計台２階展示室〈入場無料〉
共催：頴川美術館

学校法人関西学院と財団法人頴川美術館との連携協力協定締結を記念して、頴川美術館所蔵の浮世絵「浪花百景」を一挙展覧いたします。「水の都」、「天下の台所」と呼ばれ活気に溢れる150年前の大坂へ名所を辿る旅に出かけましょう。

「浪花百景」天下茶やぜさい　より

### 講演会

あなたの「浪花百景」・
わたしの「浪花百景」
-私的で小さな「ふるさと」論-
永田雄次郎氏
関西学院大学文学部教授
2010.5.29（土）13:30▶15:00
関西学院大学西宮上ケ原キャンパス
図書館ホール〈入場無料〉

「浪花百景」に私の故郷も描かれますが、では、どの範囲までが故郷なのか、その大きさの意識は年令とともに変化しないのかなどに興味を覚えます。さらに、その描かれ方という作品の芸術性についても考えてみましょう。

地域の文化活動の連携をめざして

# 頴川美術館と共催展

## 頴川美術館と連携協力

学校法人関西学院は、2009年10月1日に財団法人頴川美術館と連携協力の協定を締結しました。頴川美術館は、大阪の実業家頴川德助氏が収集した古美術品のコレクションで知られています。収蔵品は平安時代の仏画をはじめ、室町時代の水墨画、長沢芦雪や池大雅らの江戸時代の絵画が中心をなし、さらに茶道具や墨跡など約500点に及びます。そのなかには重要文化財4件、重要美術品4件も含まれています。この貴重なコレクションの保存と公開活用を図るために財団が設立され、1973年11月1日に美術館として開館しました。

頴川美術館は、春秋の展覧会はもとより、公開講座など地域の文化活動に貢献されてこられましたが、今般、関西学院から最も近い美術館として学校教育と地域の文化活動の連携を図り、学生が美術に親しみ、学術研究がいっそう推進され、あるいは地域への文化貢献を果たすべく両者が協力体制を組むことになりました。

この提携によって、関西学院の学生や生徒は頴川美術館へ無料で入館できるようになりました。学校の帰り道に美術館に立ち寄って、日本の美術のすばらしさを自分の眼で感じてほしいと思います。頴川美術館では、かねてより大学の学芸員養成課程の授業である博物館実習に協力をいただき、実習生を受け入れていただいておりましたが、さらに今後は現場の学芸員の仕事を体験できる貴重な機会が充実することになります。また、頴川美術館に収蔵される美術品の数々は、美術史研究にとって重要な作品です。大学と美術館との連携協力により、研究がいっそう推進されることが期待されます。

## 「浪花百景」展を共催

この連携協力を記念して関西学院大学博物館開設準備室と財団法人頴川美術館との共催により、「浪花百景　大坂名所案内」と題する企画展覧会を開催します。

「浪花百景」は、幕末ごろの浪花の名所を季節感豊かな風景とともに描いた100枚の浮世絵です。上方で活躍した3人の浮世絵師〈一珠斎国員、一養斎芳瀧、南粋亭芳雪〉の手により合同で制作されました。本展覧会では、財団法人頴川美術館が所蔵する「浪花百景」を一挙に展覧し、寺社参拝と物見遊山をテーマに150年前の大坂の名所をたどります。

当時の大坂は河港が発達していたことから「水の都」と呼ばれ、諸藩の物産が集まる「天下の台所」として活気の溢れる街でした。また、歴史的な旧跡や寺社仏閣、花の名所なども多く存在したことから、巡礼や物見遊山を目的とした人々が各地の名所を訪れました。「八百八橋」とも言われる数多の橋が街中に架かる様子も人々の目を大いに楽しませたことでしょう。

しかし、まだ自由に旅をすることが難しかった江戸時代には、巡礼を名目に神社仏閣を巡ること自体が一種の行楽であり、人々は土地の景色や生業、季節の風物を目当てに浪花の街を遊びまわりました。淀川沿いの景色を眺めながらの大坂への川下り、街中で目にする橋の数々、活気溢れる市場や大店での寄り道、寺社巡りに高台からの眺望、芝居見物、料亭遊び、史跡を巡って…と大坂の名所がこんなにあったのかと驚かれることでしょう。

今は失われてしまった名所の数々を「物見遊山にいきまひょか」という気持ちで展覧会をお楽しみください。

# 展覧会報告

原野コレクションII

# EX 蔵書票 LIBRIS

-夢二から現代作家まで-

自分の蔵書であることを示す「蔵書票」その歴史的なあゆみと制作技法、モチーフに焦点を当てました。

2009.10.19（月）▶12.18（金）
10:00〜16:30（日曜・祝日休館）
但し大学祭期間中の11.1（日）, 11.3（火）は開館
関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
時計台２階展示室
観覧者数　　2209人
記念講演会参加者　58人

大正から現代に至る蔵書票

## 日本の蔵書票のあゆみ

EX LIBRIS―エクスリブリス―とは、「私の蔵書のなかの一冊」という意味のラテン語で、自分の蔵書であることを示すために本の見返しに貼り付ける小さな紙片のことをいいます。日本では「蔵書票」と呼ばれ、多くは持ち主の名前とともに好みの図柄などを入れた小版画で、たいへん美しい魅力をもっています。

2007年、関西学院大学は蔵書票の収集家原野賢吉氏より膨大な蔵書票コレクションの寄贈を受けました。これを記念して、2008年には「原野コレクションⅠ　本に貼られた版画ー蔵書票の美ー」展を開催しました。

今回は、原野コレクションの第２回目の展覧会として、第Ⅰ部「日本の蔵書票の歩み」、第Ⅱ部「日本のEX LIBRIS」の2部で構成しました。蔵書票の普及に携わった「日本蔵票会」や「日本蔵書票協会」、そして現在の「日本書票協会」によって発行された蔵書票集を中心に、ほかに竹久夢二、棟方志功、川上澄生、武井武雄、池田満寿夫など大正から昭和にかけて活躍した作家の蔵書票を展示しました。

型染などの多彩な技法

## 日本のEX LIBRIS

第Ⅱ部では、蔵書票の制作技法と日本ならではのモチーフに注目しました。型染・孔版・合羽摺・篆刻・板目木版など日本の蔵書票にはさまざまな技法が見られます。そのような技法を用いて風景や四季・郷土玩具・寺院など日本ならではのモチーフをあらわした蔵書票を技法別に展示しました。

そのなかには型絵染で知られる芹沢銈介の作品や木版の特色を活かした棟方志功の作品も含まれています。

さらに西洋のエッチングに優るとも劣らない精細な銅版の蔵書票や、切り絵で作られた繊細な蔵書票、珍しい切手型の蔵書票など多様な蔵書票が並び、日本の色鮮やかな蔵書票の美しさが会場から伝わってきました。

記念講演会

## 型染の魅力について
### ―実演とともに―

会期中の11月1日（日）には、日本独自の技法である型染について、その魅力を型染作家である松原秀子氏に実演をふまえながら語っていただきました。

会場には、松原氏の多数の作品、ご使用になられている材料や道具が並び、型染版画の作業工程をひとつずつ順番にご説明いただきました。型染をはじめられたきっかけ、こだわりの童のモチーフについて熱心に語られ、また、同じ型染作家であるご主人の松原邦光氏との心温まるお話などもあり、盛況のうちに終了しました。

日本でも屈指の原野コレクションにはまだまだ魅力溢れる作品が含まれていますが、この展覧会では、日本の蔵書票が歩んできた歴史とそこに見られる多様な技法、モチーフを紹介しました。

# 観覧者の声

## アンケートより

原野コレクションII
EX LIBRIS

蔵書票という物を初めて知りました。こんな小さくて豊かな文化があったのかと驚きました。どれも可愛かったです。
(学生 男性 10歳代)

照明や展示ケース等、作品が見やすく、又、様々な種類の書票に驚きました。書票の種類でキャプションの色分けが行われていた点がわかりすかった。
(社会人 男性 20歳代)

協会、団体の発行したものから、個々の作家によるものまで、また技法のちがいごとにまとめてあったのが良かったと思います。蔵書票とは何か？やこれをつくる協会の流れなど分かりやすかったです。
(学生　女性 20歳代)

孔版等、製作工程が分かりづらいので、図や写真であったら良いなと思いました。またIII（第３弾）があれば見に来たいです。
(関学生 女性 20歳代)

大変良かったです!! BGMもよく、照明も良く、昼休みにおとずれましたが、いやしとなりました。キャプションがよかったです!!　蔵書票を知らない人でも親しみがもてました。コレクションされた原野さんのセンスの良さに感動しました。また再展示して下さい!!問題点として、開館16:30までということ、日曜休館であると学外からこられる人が困ると思うので、改善を少ししたほうがいいと思いましたが、むずかしいですよね。
(学院関係者 女性 30歳代)

わかりやすく色彩豊かで伝えようとするものについてくわしくていねいでよかったです。こじんまりしていて、あたたかい雰囲気ですが、初めて知ることばかりでとても有意義でした。色彩的にも美しかったです。ふつうの版画と違って、本の所蔵者の意志の発信のための作品だとわかりました。
(学生保護者 女性 50歳代)

静かでとても観やすかったです。技法についての短い文もあって良かった。今後とも、小さな展覧会だからこそできる、暖かく個性のある展示をお願いします。
(その他 女性 40歳代)

小さい作品を見るのにちょうどいい広さだと思います。順路は横書きだったからか、思わず左から右へ見ていってしまい、出だしからまちがってしまいました。
(学院関係者 女性 40歳代)

明るくて、小さな作品も見やすく展示されていた。限られたスペースに文字や絵をどのように配するか、という工夫が蔵書票に凝縮されているように感じました。これは日本人の得意分野かもしれないと思いました。
(関学生 女性 20歳代)

EX　LIBRISは本の付属品という印象でしたが、展覧会をみて、それも一つの芸術であると感じました。本を大切にしている人々の姿が浮かんできます。
(社会人 女性 40歳代)

すばらしい。日本のレベルの高さとアイディアのおもしろさに感心しました。貴重な物、拝見できまして、ありがとうございます。
(社会人 女性 60歳以上)

きちんと整理して展示されていた。時代別に展示されていたこと、また技法別も良かった。大正・昭和の作品～ロマンがある。貴学での2回目の展示会（書票）。これからも継続していってほしい。
(その他 男性 60歳以上)

EX　LIBRISの世界を知りました。関大や南山、西南学院などには大学博物館があります。関学らしい博物館の開館を楽しみにしています。学院史や企画展など定期的な展示を希望します。
(社会人 男性 30歳代)

もっと一般にPRすれば、日本の伝統ある版画の文化がこんな小物に粋に活かされていること、初めて知った。
(社会人 男性 60歳以上)

和紙にこだわり、カラフルな木版画手法を活かしたまさに日本文化の伝統を映し出す「EXLIBRIS」は圧巻でした。introductionが理解を助けた。これからもよい企画を期待しています。
(元職員　男性　60歳以上)

## アンケート統計

アンケート回答者数　914人
アンケート回収率　41.4%

**年齢・男女別**

| | 男性 | 女性 | 無回答 |
|---|---|---|---|
| 20歳未満 | 31 | 132 | |
| 20～30歳未満 | 41 | 166 | |
| 30～40歳未満 | 30 | 47 | |
| 40～50歳未満 | 51 | 83 | |
| 50～60歳未満 | 60 | 68 | |
| 60歳以上 | 116 | 74 | |
| | | | 15 |

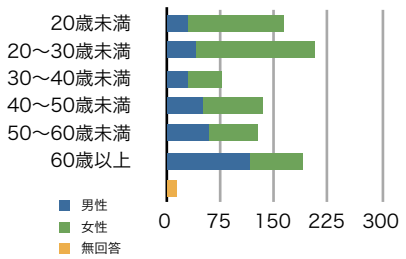
**アンケート回答者内訳**

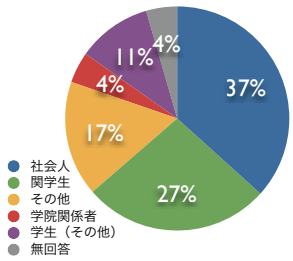
| 職業 | 人数 |
|---|---|
| 社会人 | 335 |
| 関学生 | 246 |
| その他 | 152 |
| 学院関係者 | 41 |
| 学生（その他） | 98 |
| 無回答 | 41 |

**人気のあった作品**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | マダムバタフライ | 坂東壮一 |
| 2 | カササギ | 倪瑞良 |
| 3 | 彼岸花 | 稗田米司 |

マダムバタフライ（蝶々婦人）

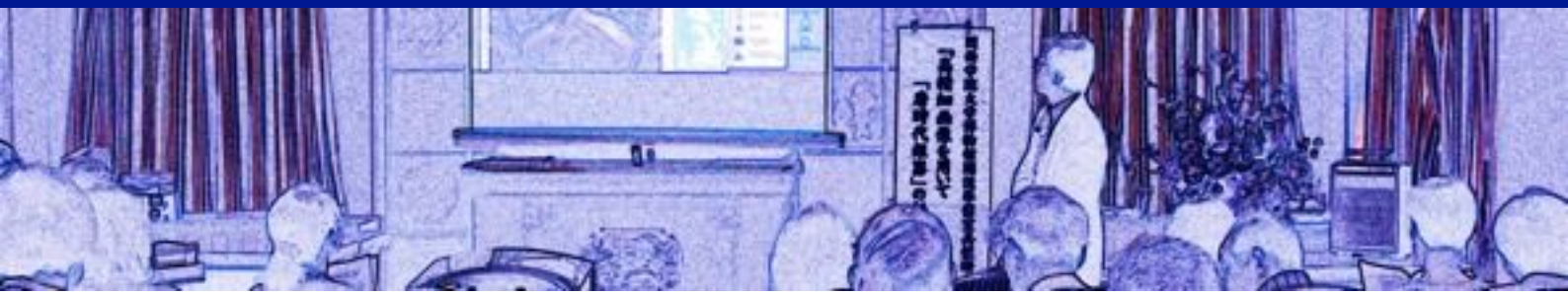



**人気のあった作家**

| | |
|---|---|
| 1 | 竹久夢二 |
| 2 | 武井武雄 |
| 3 | 棟方志功 |

竹久夢二
三味線（復刻）



# 公開研究会

## –実物とデジタル画像による文化財考察–

本室では学内で開催する展覧会とともに、学外関連諸機関との連携を推進し、その活動の成果を広く社会に公開することを目指しています。その一環として、これまでに作製した高精細デジタル画像を活用した公開研究会を京阪神の美術館で開催されている展覧会に合わせておこないました。研究会では、展覧会場に陳列された作品を対象にして、その高精細画像をスクリーンに映しだし、肉眼で見ることの困難な作品の細部、あるいは類似作品との比較検討をおこない、作品の魅力を探りました。

### 第1回公開研究会

**共催・会場：白鶴美術館**
**講師：白鶴美術館学芸課長　山中 理氏**
**題名：高精細画像を用いて**
**「唐時代銀器」の秘密をさぐる**
**開催日時：2009年9月20日(日)14時～**

「明日への贈りもの　–珠玉の中国・日本美術–」をテーマとする、白鶴美術館の秋季展に合わせて研究会を開催しました。最初に取り上げられたのは、内底に金メッキを施した「鍍金龍池鴛鴦双魚文銀洗」という唐時代の銀器です。口径が14cmの小さな器物には、草花や鳥の文様の間を埋めるように、微細な粒状の魚々子が打ち詰められています。ここで問題になったのは、この器物にみられるように、唐時代の魚々子は通常では横方向に打たれているが、縦に打たれているものがあるという指摘でした。この問題をめぐっては会場から、中央アジアには縦打ちの器物も存在し、打ちの方向で時代性（この場合は唐）を決定できるかどうかという意見も出されました。これ以外にも、1cm程度の大きさで表された首を上げて飛ぶ鴨、あるいは振り向く馬の姿など、文様に込められた唐時代の工人の思い、その時代性の詳細が紹介されました。また「八曲長杯」をめぐっては、鋳造で造られた金銅製のものと、当館の銀製のものとの差異も語られました。

以上のように、この研究会は高精細画像ならではの細部観察を活かした内容となりました。

参加者：　51　名

### 第2回公開研究会

**共催・会場：黒川古文化研究所**
**講師：黒川古文化研究所研究員　川見 典久氏**
**題名：高精細画像でみる和鏡**
**開催日時：2009年11月14日(土)13時30分～**

前回の経験を踏まえ第2回研究会は、高精細デジタル画像からどのような情報を引き出せるか、という事を第一点目の主題としました。ここでは複数の画像の比較、あるいは拡大像から何が読みとれるかということを実践しました。第二点目は、画像を見ながら講師と参加者とのやりとりを通じて何事かを発見・検証するという事でした。

まず講師の川見氏から、室町時代の和鏡「青銅蝶々双鶴文鏡」を提示しながら、青銅鏡の成分組成の時代変遷と金属色の変化、あるいは文様描写の方法（スタンプとヘラ）、表面を平滑にするための研磨の有無等、製作技法上の特徴についての見解が示されました。これを契機として、鋳型と同笵鏡、踏み返し、研磨と轆轤目、ヘラの使い方等について意見交換を行いました。つづいて「青銅　蓬莱図鏡」二面を比較しながら、亀、岩、草、鶴の表し方の詳細と製作技法の説明、さらには表現の優劣、時代や意識の差などについて、画像を見ながら参加者とのやりとりがおこなわれました。

なお、開催されていた展覧会のテーマは、「鎌倉･室町時代の意匠と装飾」でした。

参加者：　45　名

第２回公開研究会

鍍金龍池鴛鴦双魚文銀洗

同　部分

青銅　蓬莱図鏡A（部分）

青銅　蓬莱図鏡B（部分）

博物館開設準備室通信　第２号
MUSEUM PLANNING OFFICE NEWS No.2
2010.4.1

関西学院大学博物館開設準備室
〒662-8501
西宮市上ケ原一番町1-155
TEL 0798-54-6054　FAX 0798-54-6066